

KODAK Gray Scale

C Y M

Kodak
LICENSED PRODUCT

日本製 補腦汁

補腦汁

養水綴 國國國



13
3086
7

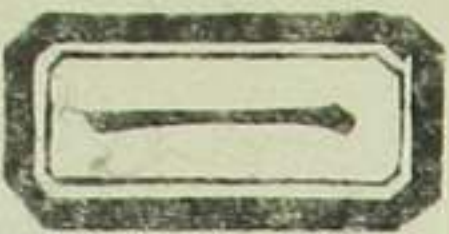
9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30



春水補綴

介題曲三國史

特
へ13
3086
7



舌切雀の重い筭筆小百鬼夜行の形骸籠め桃太郎
 の桃うら生と蟹の仇討兎の義使枯木小花咲
 かと道理小ころくハひらととて乗る方もる虚談小似
 小示さんととる老婆心あくあふ死致現小啞小似と真の
 説くとも真小似とと啞ハ吐くたと言ひ中中も合巻ハ素より
 虚語哉看板小出と綴る所為中ららねと食言う
 出と真のあつと猶是と棄ちつと六掬飯小換え標の
 亥うら芽の出とよりの僥倖あらん。

文久二拾
 壬戌新春

為永春水誌

西國奇談十三

志めんをわ

國さた

をうく



新增補西國奇談第十三篇上

喜鶴堂發兌



阿毒婦



妖狐の
悪霊



木村龍太郎



賤女浪子

西國奇談十三

西國奇談十三



Handwritten text in vertical columns, likely a poem or commentary related to the illustration.



Handwritten text in vertical columns, likely a poem or commentary related to the illustration.



Handwritten text in vertical columns, likely a poem or commentary related to the illustration.

五十四番 晴三

口



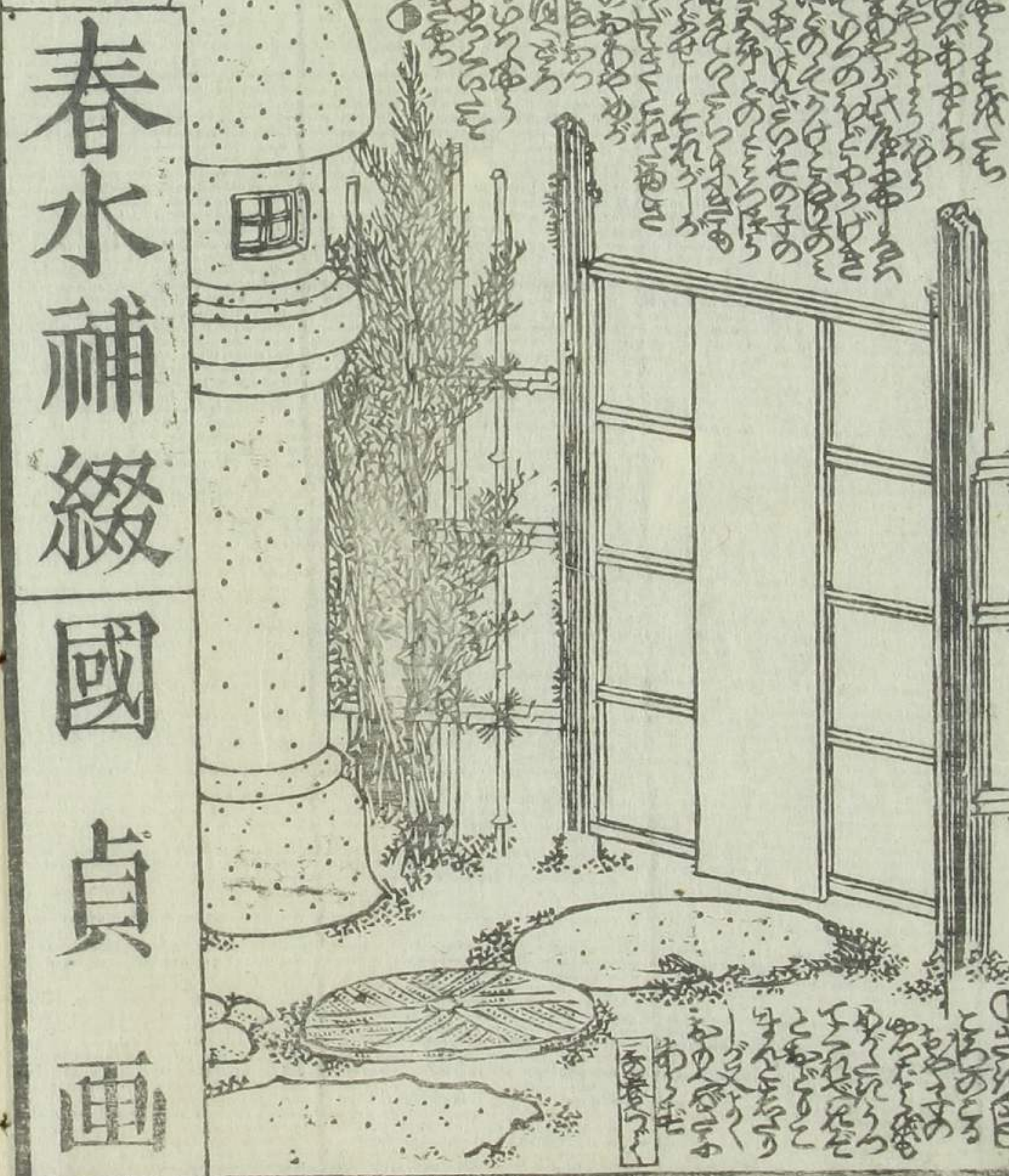
西國奇談十三



西國奇談十三



つれづれに... 西國奇談... 昔の事... 今も... 昔の事... 今も... 昔の事... 今も...



春水補綴國貞画

西國

奇談

春水補綴

國貞画

根源實紫新刻概畧 作者柳亭種彦画工同前

十五編 統紫... 穴の買... 宝笛香炉偷... 宣孝... 野洲見... 詛... 紫... 式部... 寛... 受... 十六編 式神... 祖... 狭... 手... 子... 等... 隠... 謀... を... 露... 下... 柳... 彦... 自... 截... 式... 汚... 名... 入... 玉... 雲... ま... 黒... 白... 判... 然... 兎... 悪... 皆... 戮... せ... ら... つ... ぎ... 少... 將... が... 貞... 節... 推... 規... 北... 国... 中... 死... 死... 又... 蕪... 蕪... 十七編 大... 貳... 三... 位... け... き... 宣... 孝... 病... 死... 花... 山... 法... 皇... の... 傳... 大... 々... 此... 編... 之... 全... 備... 之... 式... 部... 源... 氏... 物... 語... を... 作... 上... 東... 門... 院... 奉... 公... 十八編 下... 巻... 記... 是... 也...



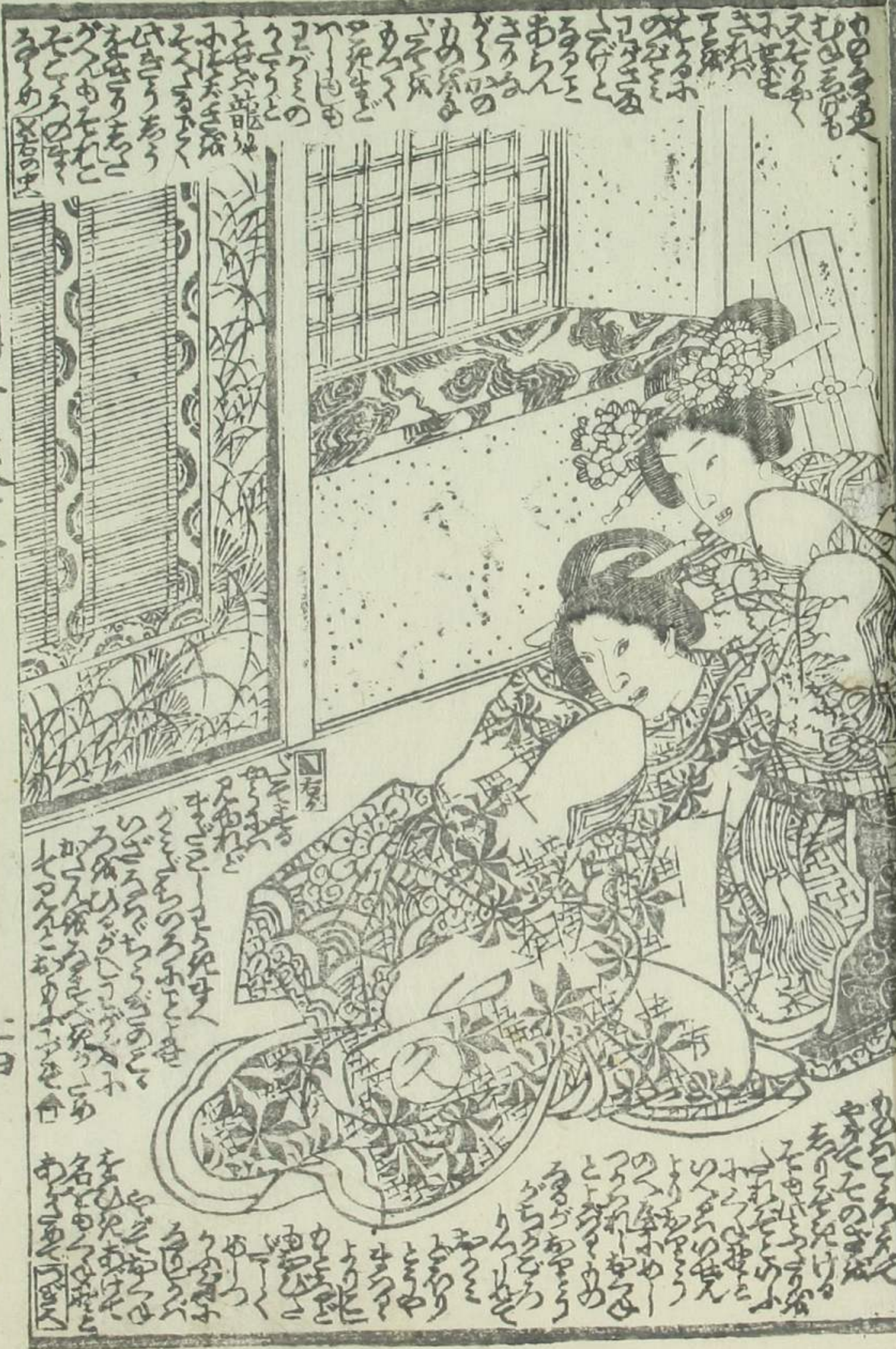


西國新刊

新増補 西國奇談

為永水化 歌川貞直

三編下の巻 佐の喜梓



この物語は、西國の奇談である。二人の女は、この部屋で何かを語り合っている。窓の外には竹や草が見え、部屋は静かである。二人の服装は、当時の和装である。床には大きな敷物があり、その上には何かの道具が置かれている。

この物語は、西國の奇談である。二人の女は、この部屋で何かを語り合っている。窓の外には竹や草が見え、部屋は静かである。二人の服装は、当時の和装である。床には大きな敷物があり、その上には何かの道具が置かれている。

十四

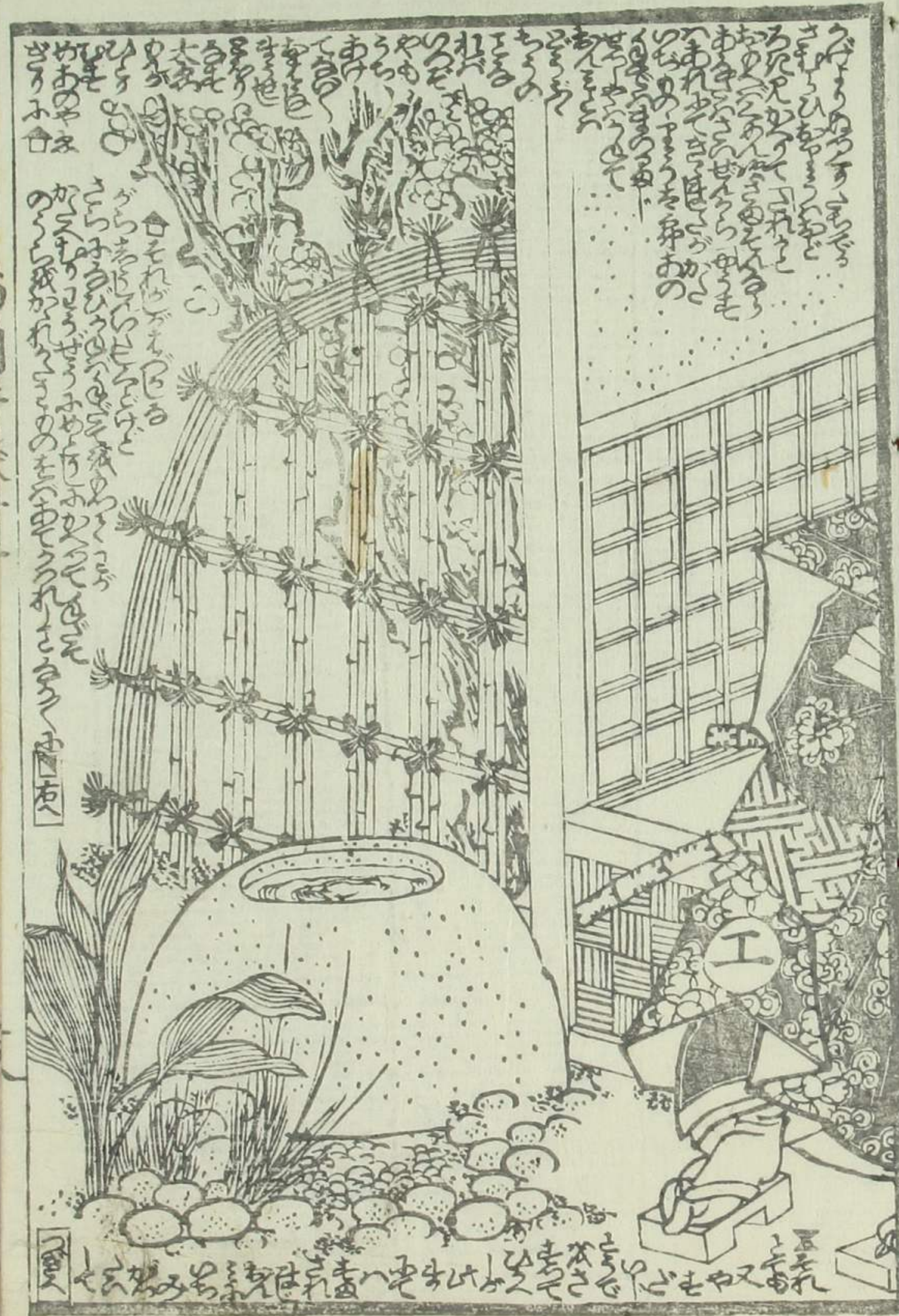


この物語は、西國の奇談である。一人の女は、この部屋で何かを語り合っている。窓の外には竹や草が見え、部屋は静かである。彼女の服装は、当時の和装である。床には大きな敷物があり、その上には何かの道具が置かれている。

この物語は、西國の奇談である。一人の女は、この部屋で何かを語り合っている。窓の外には竹や草が見え、部屋は静かである。彼女の服装は、当時の和装である。床には大きな敷物があり、その上には何かの道具が置かれている。

西國奇談十三





Handwritten Japanese text in the upper left corner of the garden scene, likely a poem or commentary related to the illustration.

Handwritten Japanese text at the bottom of the garden scene, possibly a signature or additional notes.



Handwritten Japanese text in the upper right corner of the room scene, likely a poem or commentary.

Handwritten Japanese text in the lower right corner of the room scene, possibly a signature or additional notes.

為永春水補綴

朝鮮牛肉丸 大盒金葉 小盒百銅
生一ひの成ちるまゝ
おんせの成ちるまゝ
茶をたれはくすまゝ
くろくろくろく
るすのめぞト

梅蝶樓國貞画
対品 深崎氏製

梅蝶樓國貞画



文久二年戊辰新年鐫目録

根源實紫 十五編 柳亭種彦作
十六編 一壽齋國貞画
十七編

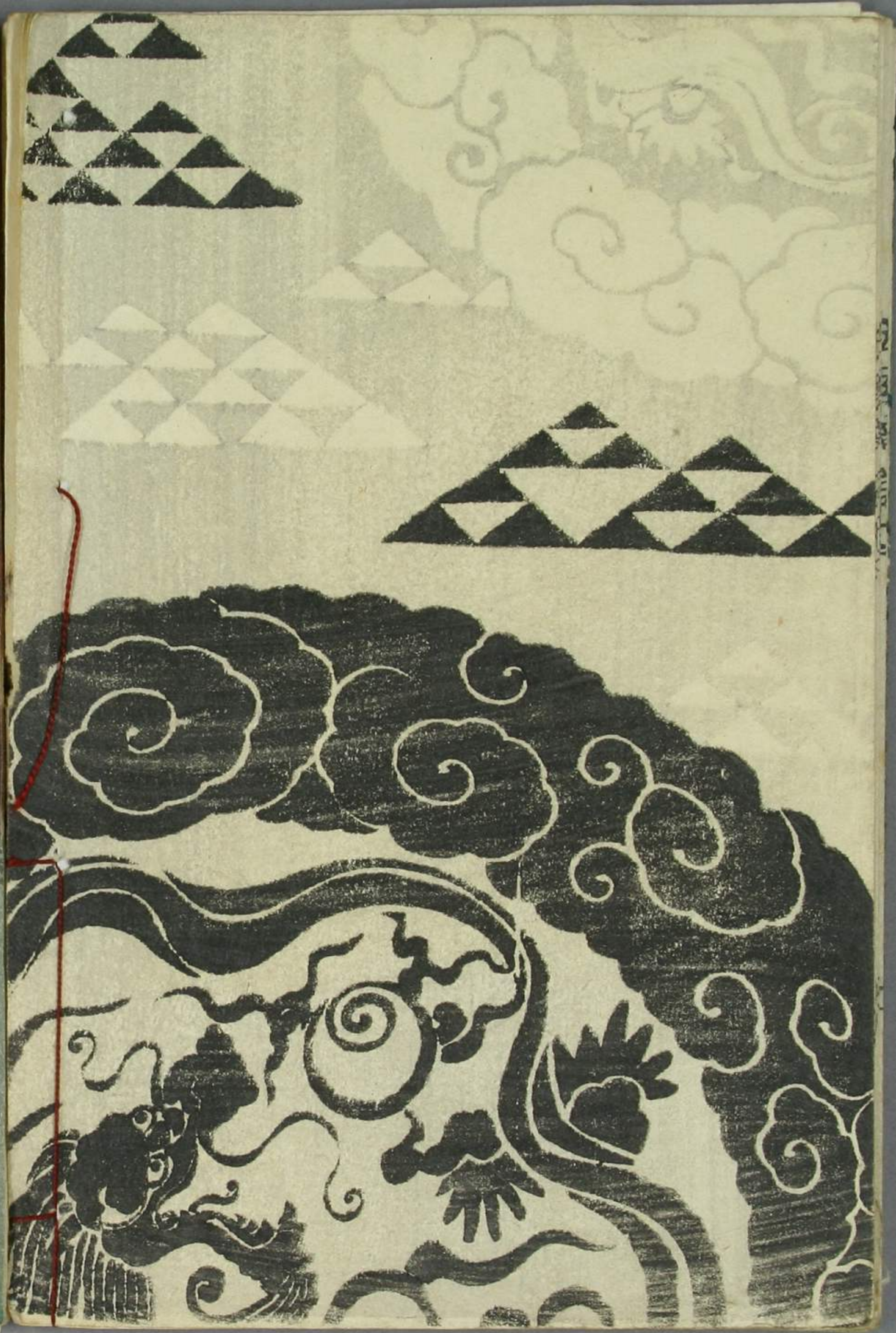
娘庭訓金鶏 五編 同
大尾同 画作

おらみ 琴聲美人録 十七編 柳亭種彦作
十八編 川國貞画
十九編

花兄弟陸奥名所 初編 柳亭種彦作
二編 川國貞画

新增補西國奇談 十三編 為永春水作
十四編 川國貞画
十五編

地本繪草紙團扇問屋 三 芝神明前 三 佐野屋喜兵衛板



只その心の趣く俣ふ綴りて一時の戯墨とるをも策子物語の
 うみまの言でも閣べき夏まゝ。前輯十三篇の末に阿童が殺
 生石坂祈るの一段。這ハ奇とまると過々を看官憶ひぬ
 んるれど。同氣かゝるも相求め同病自ら相憐むの理を
 けて推をこたへ。毒婦が祈る一念の那妖怪の幽魂小自然
 と貫通するところ。終小妖術を得ることの教本編既小
 蒙成。此半員の餘帙あねど。毎輯の序小誌をきき言の葉
 草の露やもあゝるまゝもる余計をきき迷ふるん。

文久二稔
 壬戌孟春

為永春水識る

病くたむ
 春水花 上乃
 くにた
 ちのく



佐の松板



八代あしひの別館べつくわん二町ふのまち閑居かんきよの躰たい

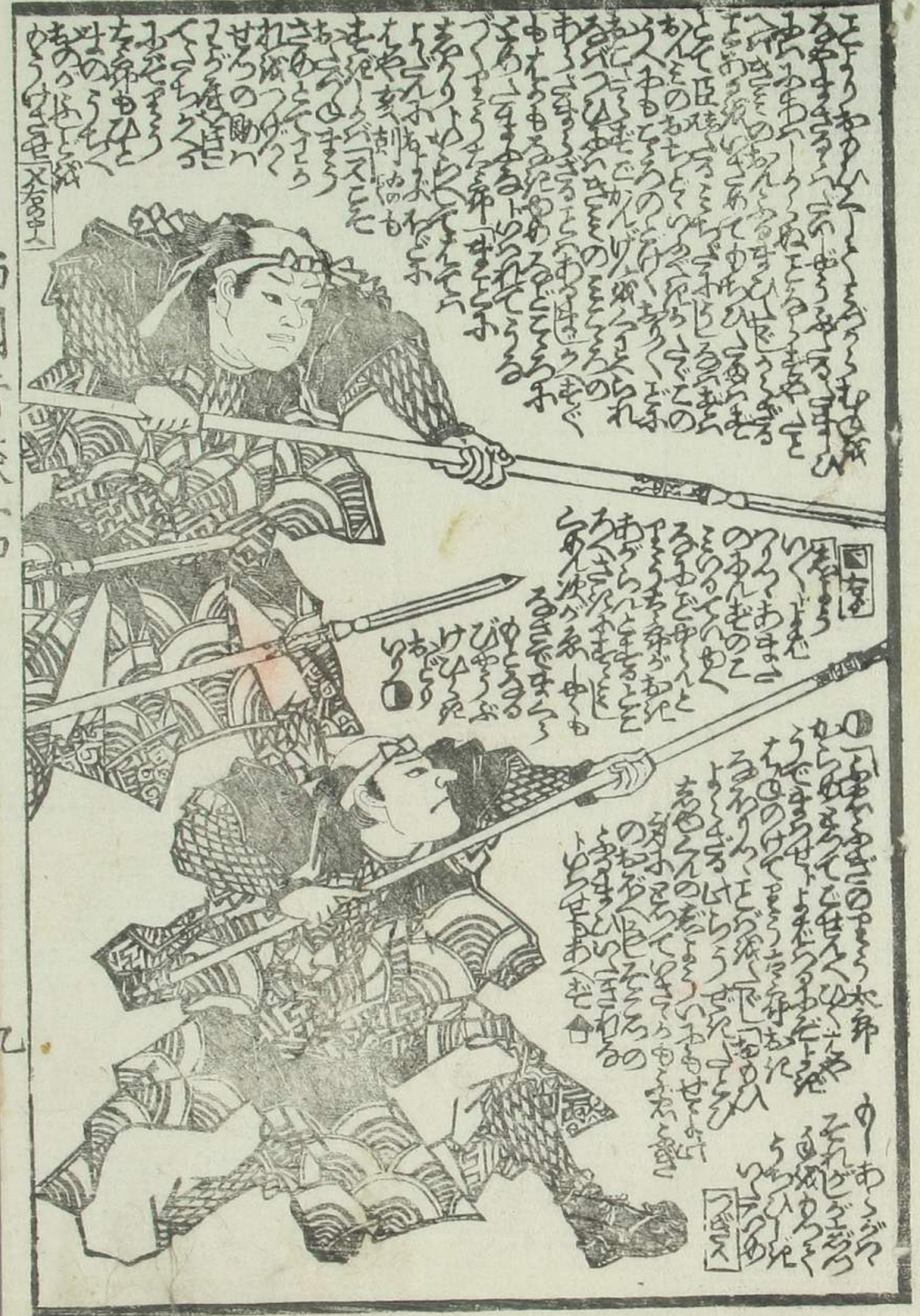




西園寺



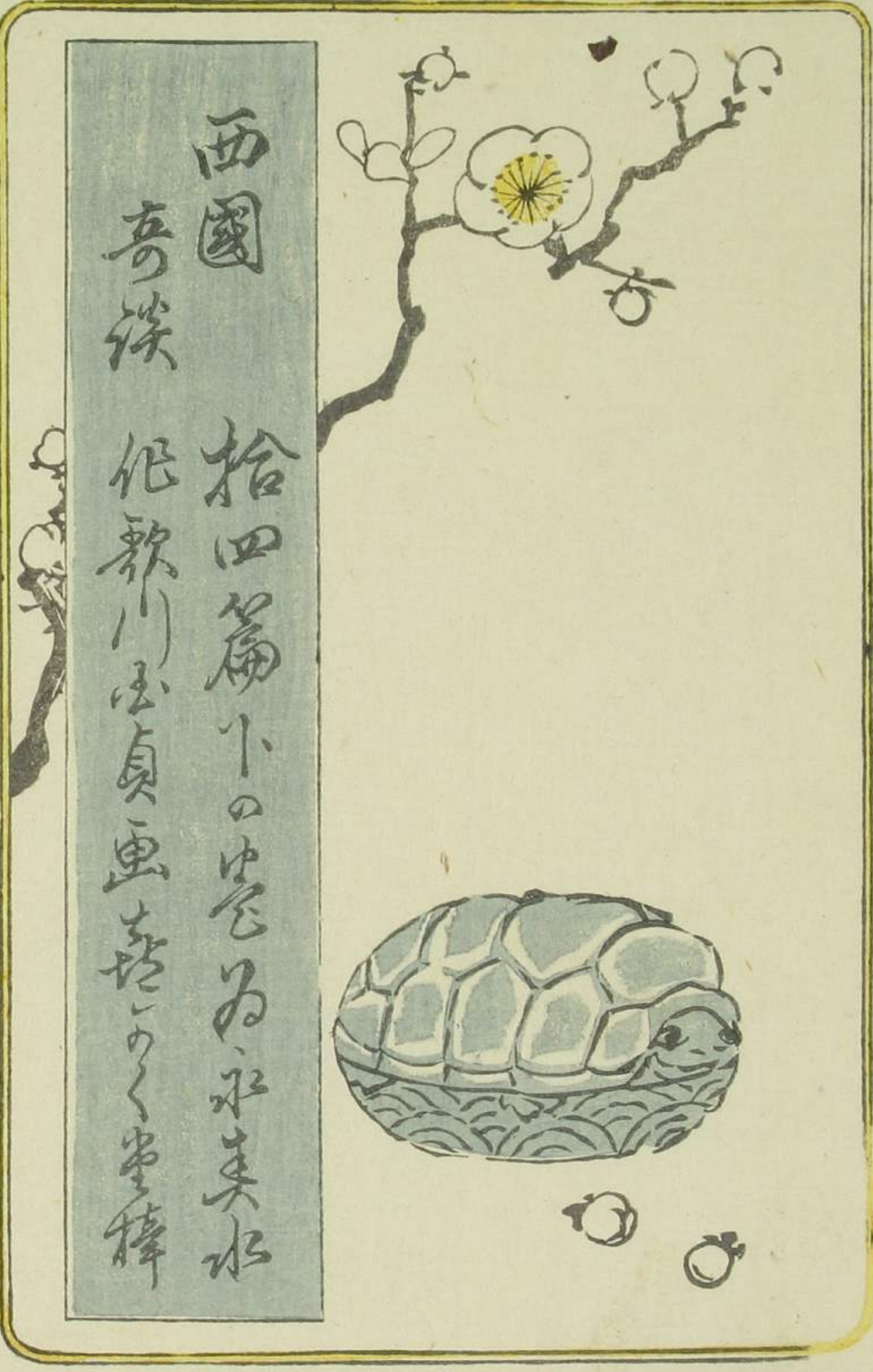
西園寺



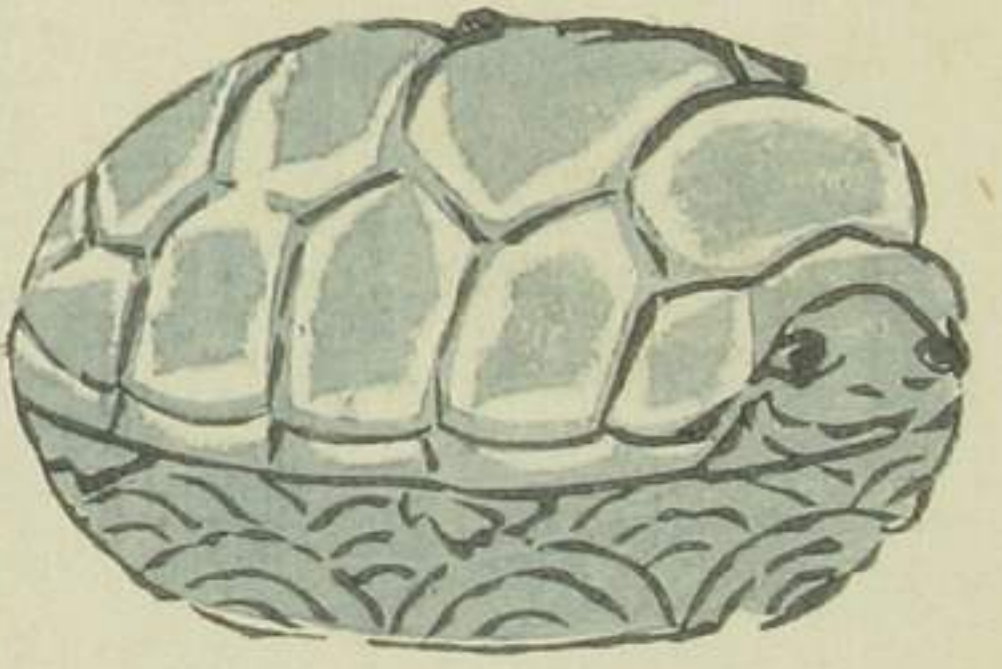
西園寺公良

西園寺公良

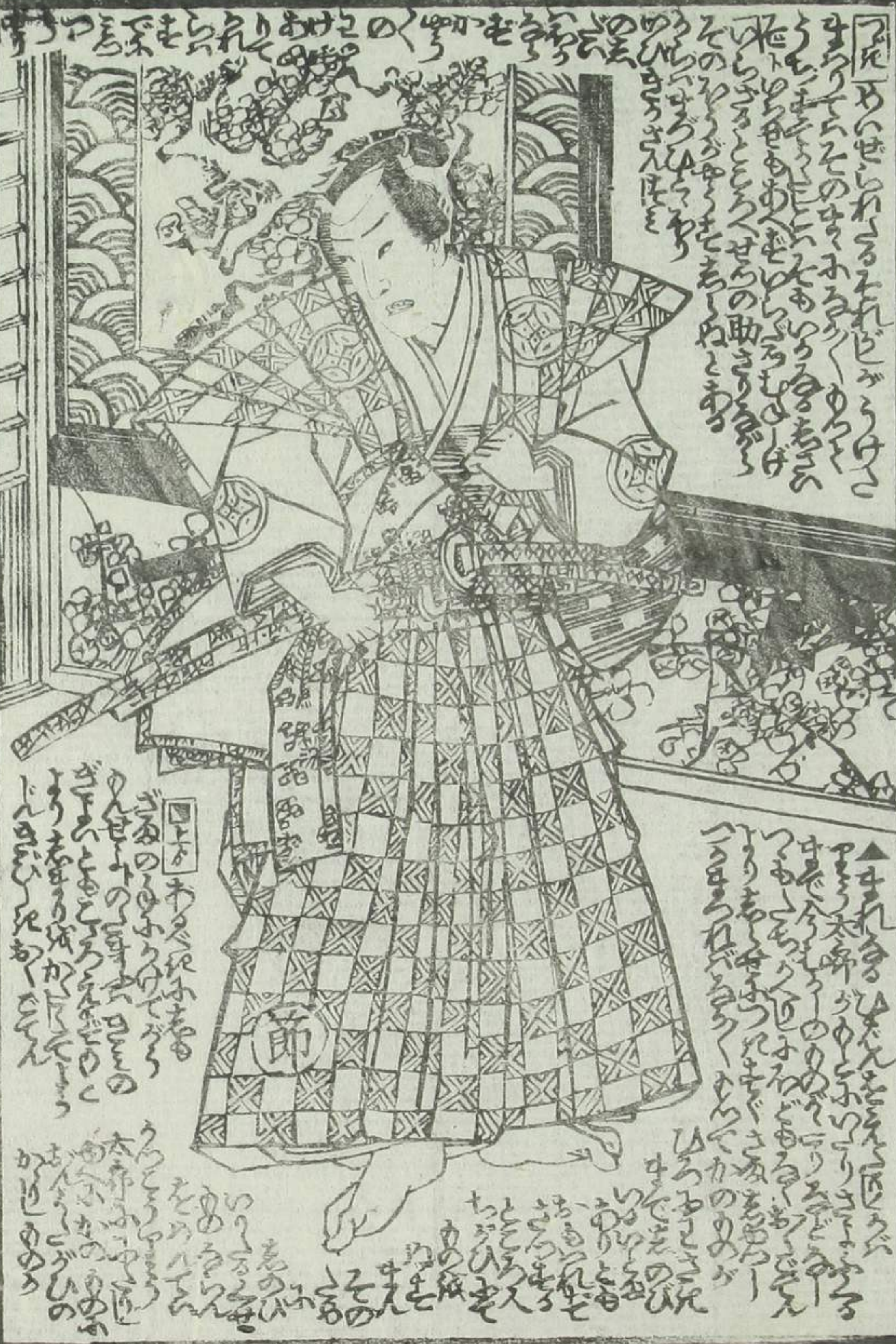




西園 拾四篇下の巻をぬき水
 高深 化歌川必貞画と塔のくちま棒



「花」のせらわるとれじやうけ
まうりてそのまふくくゆり
うらみちもあつたあつたあつた
そのまふくくゆりまふくくゆり
そのまふくくゆりまふくくゆり
そのまふくくゆりまふくくゆり



「上」のあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた



「中」のあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた

「下」のあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた



ついでに... 西國音訓十四

▲左... 西國音訓十四



ついでに... 西國音訓十四

▲左... 西國音訓十四



春水補綴

さしこ

佐の作

新樽補

酒

白

團貞畫

分十匹編

